

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	固体音小委員会		主 査 名：漆戸幸雄 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)		委員長名：岩田利枝 主 査 名：古賀貴士
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 床衝撃音遮断性能の測定・評価・予測に関する研究動向の収集と課題の抽出、および解決策の提案に向けた検討。 ・ 「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」の測定・評価方法による床衝撃音データの収集および整理、衝撃源 (タイヤとボール) の互換性検討等 ・ ISO および海外の研究動向調査 ・ 床衝撃音予測手法に関する検討 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：漆戸幸雄 (フジタ) 幹事：朝倉巧 (東京理科大学) 委員：稲留康一 (奥村組)、井上勝夫 (日大理工)、岩本毅 (三井住友建設)、田中ひかり (大成建設)、中澤真司 (鉄建建設)、濱田幸雄 (日大工)、平光厚雄 (国総研)、藤橋克己 (前田建設)、松岡明彦 (戸田建設)、村上剛士 (日総試)、矢入幹記 (鹿島建設)		
設置 WG (WG 名：目的)	固体音評価法検討 WG 床衝撃音以外の固体音に関する評価方法の検討		
2018 年度予算	40,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. なし
講習会	1. なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. なし
大会研究集会	1. なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	1. なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. タイヤとゴムボールの床衝撃音データを収集し、両衝撃源間の対応を整理、分析し、次年度中に互換性に関する見解の取り纏めに向けた検討を進めた。 2. ISO に関連して JIS A 1418-2 の改定に関して動向調査を行った。 3. 現状使用されている床衝撃音予測法を調査し、特徴、課題を整理した。 4. 4. ゴムボール衝撃源、A 特性床衝撃音レベルの実測と予測を実施し、データを蓄積した。
委員会活動の問題点 ・ 課題	特になし

2018 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>音環境規準検討小委員会からの依頼事項でもある「タイヤ衝撃源とゴムボール衝撃源による床衝撃音レベル測定の互換性に関する検討」として、複数の機関が公表しているデータの収集、整理を行ない、両衝撃源による測定値についてオクターブバンドごとの対応、L 値や A 特性床衝撃音レベルなどの単一数値評価量の対応を取りまとめた。</p> <p>タイヤ衝撃源による単一数値評価量である L 値と生活実感との対応に関する論文のレビューを行い、ゴムボール衝撃源による評価量と生活実感との対応付けをするための課題を整理した。</p> <p>床衝撃音に関する海外の研究動向調査として INTER- NOISE 2017 で発表された床衝撃音関連の論文 (21 篇) のレビューを実施した。</p> <p>現状使用されている床衝撃音予測法をリストアップし、特徴、課題を整理した。</p> <p>ゴムボール衝撃源と A 特性床衝撃音レベルを用いた「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」に則した床衝撃音遮断性能設計 (予測) 法の実証検討として、実建物 A 特性床衝撃音レベルを実測と、複数の予測法による A 特性床衝撃音レベルの予測を実施し、実測値と予測値の比較事例の蓄積を進めることができた。今後さらに実証事例を増やし、2021 年度内にシンポジウムなどで成果を公表する予定である。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。